

尼崎市公営企業局

令和4年度決算の概要

令和5年8月 財務課



水道事業会計



工業用水道事業会計



下水道事業会計



モーターボート競走事業会計

令和4年度 決算の概要（水道事業会計）

1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率	
収益的収支（税抜）	経常損益	収 益	8,873,955	9,006,833	① △ 132,878	△ 1.5 %
		費 用	7,953,604	7,944,375	② 9,229	0.1 %
		差 引（経常利益）	③ 920,351	1,062,458	△ 142,107	
	特別損益	特別利益	5,233	16,336	△ 11,103	△ 68.0 %
		特別損失	3,810	4,155	△ 345	△ 8.3 %
		差 引	1,423	12,181	△ 10,758	
	当年度純利益		④ 921,774	1,074,639	△ 152,865	

資本的収支	収 入	756,717	7,132	⑤ 749,585	10,510.2 %
	支 出	2,852,421	2,488,935	⑥ 363,486	14.6 %
	差 引	△ 2,095,704	△ 2,481,803	386,099	
補てん財源		2,473,446	2,550,586	△ 77,140	
資金収支	年 間	377,742	68,783	308,959	
	累 計	⑦ 8,253,661	7,875,919	377,742	

処分前残高

建設改良積立金	3,554,466
当年度未処分利益剰余金	1,221,774
前年度繰越利益剰余金	-
当年度純利益	⑧ 921,774
その他未処分利益剰余金変動額	300,000
建設改良積立金取崩し	⑨ 300,000

処分後残高

建設改良積立金	4,476,240
繰越利益剰余金	-
議会の議決による処分額	1,221,774
建設改良積立金の積立て	921,774
資本金への組入れ	300,000

2 業務実績

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
給水人口	年 度 末	454,887 人	455,835 人	⑩ △ 948 人	△ 0.2 %
給水戸数	年 度 末	249,266 戸	248,297 戸	⑪ 969 戸	0.4 %
給水量	年間総量	⑫ 48,982,693 m ³	49,743,478 m ³	△760,785 m ³	△ 1.5 %
	一日平均	134,199 m ³	136,284 m ³	△ 2,085 m ³	△ 1.5 %

3 決算の状況

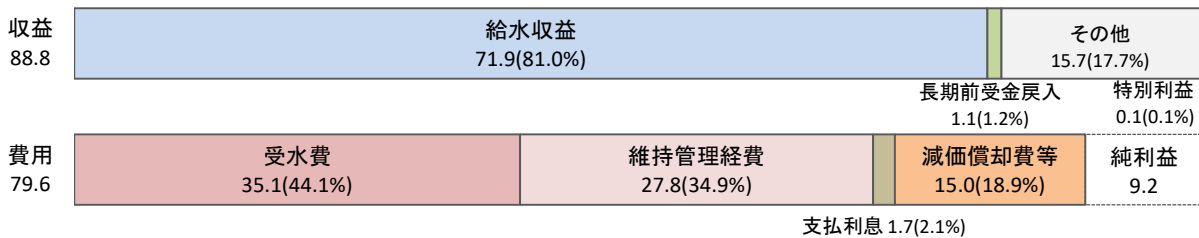
収益的収支の収益では、給水量の減少による給水収益の減少や分担金の減少などにより、前年度に比べ1億3千万円減(①)の88億7千万円となった。なお、令和4年度はコロナ禍における原油価格・物価高騰に直面する市民・事業者への支援として、水道料金の基本料金4か月分を減免したことにより、給水収益が6億2千万円減少したが、減免に対する一般会計からの補助金収入があったため収支への影響はなかった。費用では、電気料金高騰による動力費の増加や、委託料や修繕費など物件費の増加があったが、人件費や支払利息の減などにより、前年度に比べ9百万円(②)増の79億5千万円となり、差引きで9億2千万円(③)の経常利益となった。また、特別損益では、水道用地の売却益があったことなどにより、差引で1百万円の利益となった。その結果、当年度純利益は前年度に比べ1億5千万円減の9億2千万円(④)となった。

次に、資本的収支の収入では、企業債の借入金が増加したことなどにより、前年度に比べ7億5千万円増(⑤)の7億5千万円となり、支出では、配水管整備工事の増加などにより、前年度に比べ3億6千万円増(⑥)の28億5千万円となった。その結果、資本的収支で不足する額21億円は、建設改良積立金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は82億5千万円(⑦)となった。

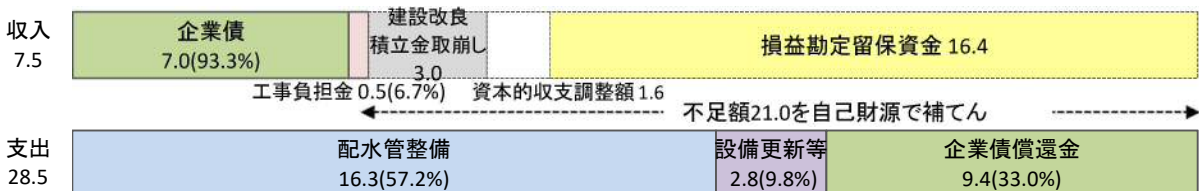
4 収支構成

(1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）

（単位：億円）



(2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）



5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、令和4年度の当年度純利益9億2千万円(⑧)は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てるものとする。また、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した3億円(⑨)は資本金に組み入れるものとする。

6 業務の状況

給水人口は、前年度に比べ948人減少(⑩)したが、給水戸数は、前年度に比べ969戸の増加(⑪)となった。年間給水量は4,898万m³(⑫)で、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加などにより増加していたが、その後は再び減少となり、令和4年度は前年度に比べ1.5%の減少となった。

令和4年度 決算の概要（工業用水道事業会計）

1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
収益的収支（税抜）	経常損益				
	収 益	1,563,778	1,749,614	① △ 185,836	△ 10.6%
	費 用	1,377,181	1,464,876	② △ 87,695	△ 6.0%
	差 引（経常利益）	③ 186,597	284,738	△ 98,141	
	特別損益				
	特別利益	203,600	278,093	△ 74,493	△ 26.8%
	特別損失	0	0	0	-
差 引	203,600	278,093	△ 74,493		
当年度純利益	④ 390,197	562,831	△ 172,634		
資本的収支	収 入	138,520	138,520	⑤ 0	0.0%
	支 出	563,737	361,790	⑥ 201,947	55.8%
	差 引	△ 425,217	△ 223,270	△ 201,947	
補てん財源		763,263	920,244	△ 156,981	
資金収支	年 間	338,046	696,974	△ 358,928	
	累 計	⑦ 8,093,816	7,755,770	338,046	

処分前残高

建設改良積立金	4,087,518
当年度未処分利益剰余金	590,197
前年度繰越利益剰余金	-
当年度純利益	⑧ 390,197
その他未処分利益剰余金変動額	200,000
建設改良積立金取崩し	⑨ 200,000

処分後残高

建設改良積立金	4,477,715
繰越利益剰余金	-
議会の議決による処分額	590,197
建設改良積立金の積立て	390,197
資本金への組入れ	200,000

2 業務実績

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
給水社数	年 度 末	⑩ 51 社	51 社	-	0.0%
基 本 使 用 水 量 (契約水量)	年 間 総 量	⑪ 47,363,495 m ³	47,669,495 m ³	△ 306,000 m ³	△ 0.6%
	年度末(日量)	129,763 m ³	129,763 m ³	-	0.0%
給 水 量	年 間 総 量	⑫ 21,702,892 m ³	21,485,579 m ³	217,313 m ³	1.0%
	一 日 平 均	59,460 m ³	58,865 m ³	595 m ³	1.0%

3 決算の状況

収益的収支の収益では、三市共同施設の改良工事に係る負担金収入の減などにより、前年度に比べ1億9千万円減(①)の15億7千万円となった。費用では、電気料金高騰により動力費が増加したが、三市共同施設に係る改良工事費が減少したことなどにより、前年度に比べ9千万円減(②)の13億8千万円となり、差引きで1億9千万円(③)の経常利益となった。特別損益では、前年度にあった廃止負担金などの特別利益がなくなり、北配水場跡地の売却益で2億円の利益となった。その結果、当年度純利益は前年度に比べ1億7千万円減の3億9千万円(④)となった。

次に、資本的収支の収入では、北配水場跡地の売却代や債券の償還金で、前年度と同額(⑤)の1億4千万円となり、支出では、配水管整備工事の増加などにより、前年度に比べ2億円増(⑥)の5億6千万円となった。その結果、資本的収支で不足する額4億2千万円は、損益勘定留保資金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は80億9千万円(⑦)となった。

4 収支構成

(1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支） (単位：億円)
() 内の%は構成比

収益 17.7	給水収益 10.8(61.0%)		共同施設管理収益 3.4(19.2%)	その他 0.8(4.5%)	特別利益 2.0(11.3%)
	長期前受金戻入 0.7(4.0%)				
費用 13.8	維持管理経費 4.6(33.3%)	共同施設管理費用 5.1(37.0%)	減価償却費等 4.1(29.7%)	純利益 3.9	

(2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）

収入 1.4	投資有価証券償還金 1.0(71.4%)	建設改良積立金取崩し 2.0	資本的収支調整額 0.4	損益勘定留保資金 1.8
	固定資産売却代 0.4(28.6%)	←----- 不足額 4.2 を自己財源で補てん ----->		
支出 5.6	配水管整備 4.0(71.4%)		設備更新等 0.6(10.7%)	投資有価証券 1.0(17.9%)

5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、令和4年度の当年度純利益3億9千万円(⑧)は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てる。また、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した2億円(⑨)は資本金に組み入れるものとする。

6 業務の状況

年度末の給水社数は51社(⑩)で、前年度末と変わらなかったが、基本使用水量（契約水量）は、前年度に使用廃止したユーザー企業があったため、前年度に比べ31万m³減少し、4,736万m³(⑪)となった。給水量は、一部のユーザー企業で使用水量が増加したことから、前年度に比べ22万m³増加し、2,170万m³(⑫)となった。

令和4年度 決算の概要（下水道事業会計）

1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
収益的 収支 (税抜)	経常損益				
	収 益	12,628,946	12,565,424	① 63,522	0.5%
	費 用	11,465,821	11,144,842	② 320,979	2.9%
	差 引 (経常利益)	③ 1,163,125	1,420,582	△ 257,457	
	特別損益				
	特別利益	1,610,263	25,290	1,584,973	6,267.2%
	特別損失	4,490	2,433	2,057	84.5%
差 引	1,605,773	22,857	1,582,916		
当年度純利益	④ 2,768,898	1,443,439	1,325,459		

資本的 収支	収 入	5,422,167	5,574,925	⑤ △ 152,758	△ 2.7%
	支 出	9,215,793	9,200,251	⑥ 15,542	0.2%
	差 引	△ 3,793,626	△ 3,625,326	△ 168,300	
補てん財源		6,707,716	5,373,571	1,334,145	
資金収支	年 間	2,914,090	1,748,245	1,165,845	
	累 計	⑦ 16,918,839	14,004,749	2,914,090	

処分前残高

建設改良積立金	12,464,631
当年度未処分利益剰余金	3,768,898
前年度繰越利益剰余金	-
当年度純利益	⑧ 2,768,898
その他未処分利益剰余金変動額	1,000,000
建設改良積立金取崩し	⑨ 1,000,000

処分後残高

建設改良積立金	15,233,529
繰越利益剰余金	-
議会の議決による処分額	3,768,898
建設改良積立金の積立て	2,768,898
資本金への組入れ	1,000,000

2 業務実績

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
有 収 水 量	年間総量	⑩ 54,486,938 m ³	54,740,372 m ³	△ 253,434 m ³	△ 0.5%
	一日平均	149,279 m ³	149,974 m ³	△ 695 m ³	△ 0.5%
降雨量/降雨日数		1,229mm/98日	1,759mm/104日	△531mm/△6日	△30.2/△5.8% ⑪
雨水放流量		9,793,572 m ³	17,521,472 m ³	△7,727,900 m ³	⑫ △ 44.1%

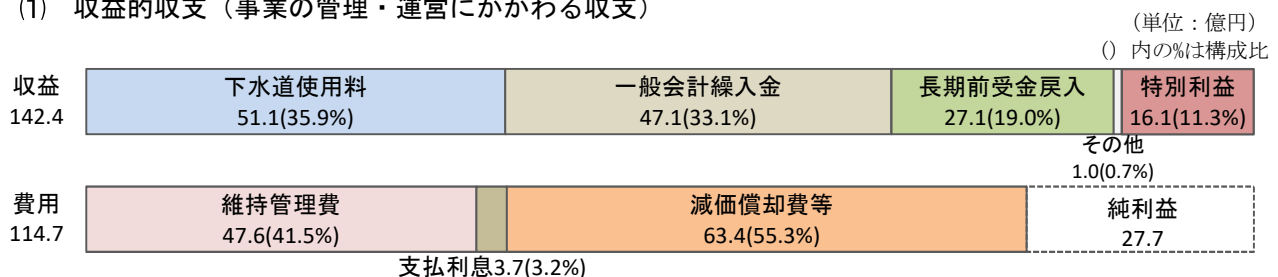
3 決算の状況

収益的収支の収益では、雨水処理負担金の増加などにより、前年度に比べ6千万円増(①)の126億3千万円となった。なお、令和4年度はコロナ禍における原油価格・物価高騰に直面する市民・事業者への支援として、下水道使用料の基本使用料4か月分を減免したことにより、下水道使用料が5億5千万円減少したが、減免に対する一般会計からの補助金収入があったため収支への影響はなかった。費用では、電気料金高騰により動力費が増加したほか、委託料や修繕費など物件費の増加などにより、前年度に比べ3億2千万円増(②)の114億7千万円となり、差引きで11億6千万円(③)の経常利益となった。また、特別損益では、過年度損益修正益の増加などにより差引きで16億1千万円の利益となった。その結果、当年度純利益は、前年度に比べ13億3千万円増の27億7千万円(④)となった。

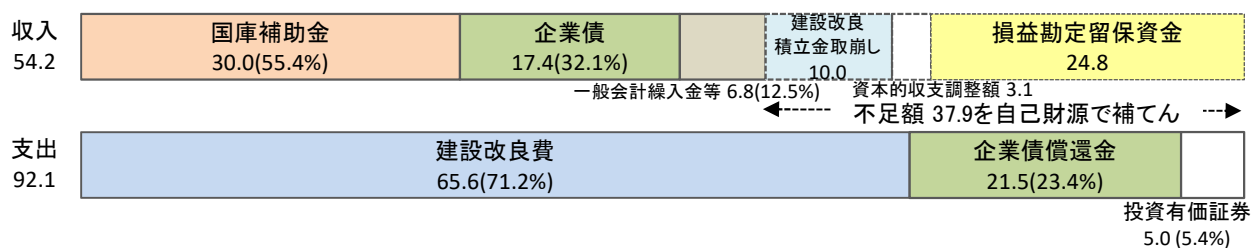
次に、資本的収支の収入では、国庫補助金が減少したことなどにより、前年度に比べ1億5千万円減(⑤)の54億2千万円となり、支出では、管渠などの改良工事が減となったが、資金運用として債券を購入したことなどから、前年度に比べ2千万円増(⑥)の92億1千万円となった。その結果、資本的収支で不足する額37億9千万円は、損益勘定留保資金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は169億2千万円(⑦)となった。

4 収支構成

(1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）



(2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）



5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、令和4年度の当年度純利益27億7千万円(⑧)は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てるものとする。また、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した10億円(⑨)は資本金に組み入れるものとする。

6 業務の状況

年間有収水量は5,449万 m^3 (⑩)で、工業用水ユーザーなどでは前年度に比べ6.2%の増加となったが、水道の利用者で前年度に比べ1.4%の減少となり、水量全体では0.5%の減少となった。

降雨量については、前年度に比べ30.2%の減少(⑪)、雨水放流量は、前年度に比べ44.1%の減少(⑫)となっている。

令和4年度 決算の概要（モーターボート競走事業会計）

1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
収益的収支（税抜）	経常損益				
	収 益	68,650,856	58,328,545	① 10,322,311	17.7%
	費 用	64,174,181	54,571,905	② 9,602,276	17.6%
	差 引（経常利益）	4,476,675	3,756,640	720,035	
	特別損益				
	特別利益	0	0	0	—
	特別損失	0	0	0	—
差 引	0	0	0		
当年度純利益	③ 4,476,675	3,756,640	720,035		
資本的収支	収 入	0	0	0	—
	支 出	352,095	2,052,807	④ △ 1,700,712	△ 82.8%
	差 引	△ 352,095	△ 2,052,807	1,700,712	
補てん財源		2,337,297	4,042,178	△ 1,704,881	
資金収支	年 間	1,985,202	1,989,371	△ 4,169	
	累 計	⑤ 11,252,381	9,267,179	1,985,202	

処分前残高

利益積立金	1,279,395
建設改良積立金	2,899,016
当年度末処分利益剰余金	9,984,172
前年度繰越利益剰余金	5,366,287
当年度純利益	⑥ 4,476,675
その他未処分利益剰余金変動額	141,210
建設改良積立金取崩し	⑦ 141,210

処分後残高

利益積立金	1,279,395
建設改良積立金	3,599,016
繰越利益剰余金	5,366,287
議会の議決による処分額	4,617,885
建設改良積立金の積立て	700,000
一般会計繰出金	3,776,675
資本金への組入れ	141,210

2 業務実績

区 分	令和4年度	令和3年度	前年度差引	増減率
開 催 日 数	130 日	130 日	0 日	—
舟券発売金（主催）	⑧ 64,366,066 千円	54,295,075 千円	10,070,991 千円	18.5%
一日平均舟券発売金額	495,124 千円	417,654 千円	77,470 千円	18.5%
舟券発売金のうち電話投票分	47,616,275 千円	38,612,853 千円	9,003,422 千円	23.3%
一日平均舟券発売金額（電投）	366,279 千円	297,022 千円	69,257 千円	23.3%
有料入場者数	249,500 人	249,757 人	⑨ △ 257 人	△ 0.1%
一日平均有料入場者数	1,919 人	1,921 人	△ 2 人	△ 0.1%

3 決算の状況

(1) 事業収支

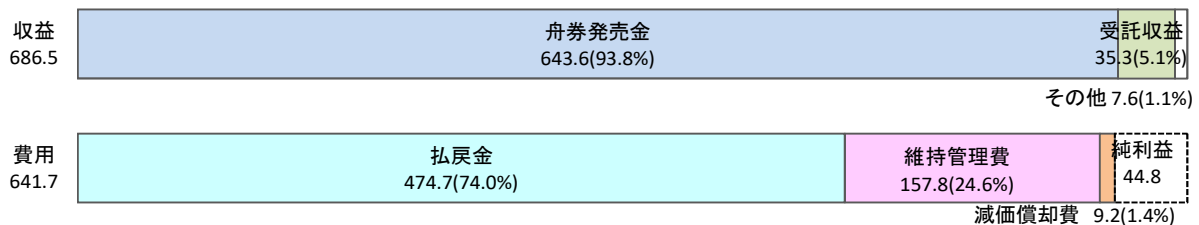
収益的収支の収益では、電話投票発売金が90億円と大幅に増加したことや、本場発売金、委託発売金ともに増加したことで、前年度に比べ103億2千万円増(①)の686億5千万円となった。費用では、施設改修事業に伴う資産減耗費が減少したが、売上連動経費である払戻金や電話投票事務分担金等及び減価償却費が増加したことなどにより、前年度に比べ96億円増(②)の641億7千万円となった。その結果、当年度純利益は前年度に比べ7億2千万円増の44億8千万円(③)となった。

次に、資本的収支の収入は無く、支出では、地方債の購入が皆増したが、施設費が大幅に減少したことで、前年度に比べ17億円減(④)の3億5千万円となった。その結果、資本的収支で不足する額3億5千万円は、建設改良積立金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は112億5千万円(⑤)となった。

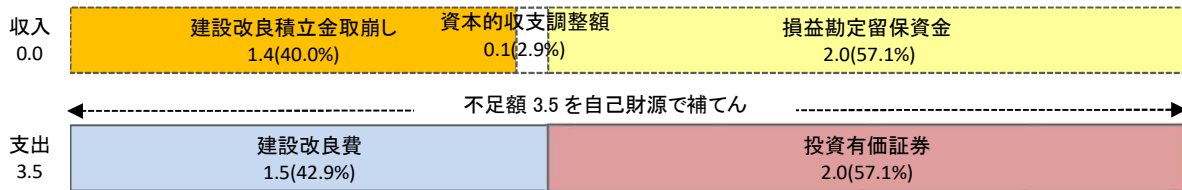
4 収支構成

(1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）

(単位：億円)
() 内の%は構成比



(2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）



5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、令和4年度決算での当年度純利益44億8千万円(⑥)については、一般会計とのルールにより、7億円を施設整備の財源として活用するための建設改良積立金に積み立て、残りの37億8千万円については、「一般会計への繰出し」とする。（営業外費用計上分3億2千万円を含めると一般会計繰出金は41億円となる。）また、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した1億4千万円(⑦)は、資本金に組み入れるものとする。

6 業務の状況

開催日数は前年度と同じく130日であった。なお、新型コロナウイルス感染症の影響による本場の無観客開催（前年度6日間）は皆減した。

舟券発売金は、電話投票発売金が23.3%増加したことなどにより、前年度に比べ18.5%の増加となる644億円(⑧)となった。

本場の有料入場者数は前年度より257人減少(⑨)し、25万人となった。